

「平成28年度 ふくしまから はじめよう。学力向上のための『つなぐ教育』推進事業」の推進地域の取組

拠点校名	双葉郡広野町立広野中学校
推進協力校名	双葉郡広野町立広野小学校

生徒の学習意欲を高め、確かな学力を身に付けさせる指導
 ～学校・家庭・社会との連携を生かして～

指定3年目を迎えた今年度は、過去2年間の取組の成果を踏まえつつ、「広野町教育ビジョン」に基づき、「学校・家庭・地域が一体となり、生徒たちの学力向上を支える基盤づくり」と「生徒が、将来に夢や希望を持ち、主体的に学ぼうとする教育活動の推進」をテーマとし、次の4つの視点から「つなぐ教育」の推進を図った。

【視点1】 教師と教師、教師と生徒、生徒と生徒をつなぐ

- 複数の教師による授業（数学、英語、理科、技術、英語はALTと3人体制）
- 現職教育の推進（アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業研究）
 - ・ 校内授業研究会や公開授業研究会による研修
 - ・ 「現職だより」による資料や情報の提供と共有
- 学習カウンセリングの実施
 - ・ テスト等の結果を踏まえた学習方法に関する相談
- スクールカウンセラーによる全生徒面談等の実施
- 生徒指導連携会議の定期開催（SSW、SC、町保健師、心のケアセンター）
- 縦割り班による学校行事の実施（レク、文化祭等）



現職教育全体協議会

【視点2】 学校と学校をつなぐ

- 小・中学校の連携（連携会議の開催）
 - ・ 「乗り入れ授業」を相互に実施
 - ・ 授業研究会の実施（中学校3回、小学校4回）
 - ・ 小中9年間を見通した各教科の全体計画・単元内容系統一覧表の作成と活用
 - ・ 「広野町小中9年間を通して育てる生きぬく力」の見直しと活用（掲示）
 - ・ 学校行事の連携（避難訓練、引き渡し訓練等）
 - ・ 「自主学习ノートコンテスト」への小学生の参加
 - ・ 生徒指導情報の共有
- 双葉郡教育復興ビジョンとの連携
 - ・ 中高交流会、ふるさと創造学サミット等への参画
- ふたば未来学園高校との英語連携授業の実施
- 村上市立村上第一中学校との交流活動の継続



幼小中合同引き渡し訓練

【視点3】 学校(教師)と家庭(家族)をつなぐ

- PTA活動の充実（「face to face」の信頼関係づくり）
 - ・ 小中合同行事（奉仕作業、補導活動等）の実施
 - ・ キャリア教育講演会の開催
- 学習習慣づくり
 - ・ 「学びの手引き」の見直しと活用（配布）
 - ・ 読書週間（ノーマディア）の実施
 - ・ 学校だよりや学年通信を利用した家庭学習の啓発



PTA補導活動

【視点4】学校と地域社会をつなぐ

- 広野町中学生海外教育交流派遣事業への参加
- 「ひろの童謡まつり」の音楽祭への参加
- 広野町営学習塾の利用
- シネリテラシー教育の授業（1学年）
- 職場体験学習（2学年）
- 人権学習と福祉体験学習（3学年）
- 外部講師を招聘した各種講演会の開催
 - ・ 健康や安全に関する講演会（歯の指導、薬物乱用防止、SNS利用等）
 - ・ 長野弁護士会の模擬裁判による法教室（小6と中1の交流）
- 「グローバル人材を育む小中連携英語教育推進事業」を活用した取組
 - ・ 小・中学校英語DAYの設定
 - ・ ブリティッシュヒルズとのライブ授業、宿泊体験交流活動
 - ・ ヤングアメリカンズ（アウトリーチとショー）の開催
 - ・ グローバルな人づくり講演会の開催



シネリテラシー教育（取材活動）

《成果と課題》

◎ 「つながる」ことの重要性や必要性の実感

学校評価の結果から、教師や保護者とともに児童生徒も、学力向上に向けた取組の基盤となる学校・家庭・地域が「つながる」ことについて、その重要性や必要性を実感していることがうかがえる。3年間の取組が概ね支持されたものとして受け止めており、次年度もさらに継続、発展させていく。

◎ 教師の意識改革と指導法の質的改善

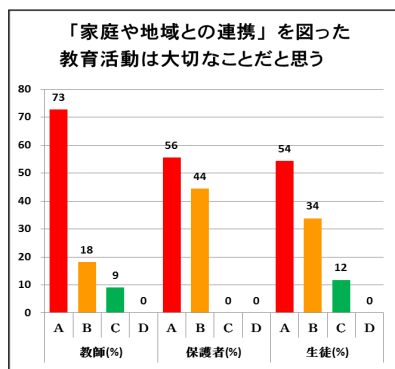
「中学校の生徒たち」という見方に加え、同じ施設で共に生活する小学生も含めた「広野町の子どもたち」という見方を教師がもつようになり、生徒の心の成長に着目した教育活動や、9年間の系統性を意識した授業及び地域資源を活用したキャリア教育の推進等を図ることができた。

◎ 生徒に芽生えた「学習者としての自覚」

学校評価や学習に関するアンケート等の結果から、児童生徒は、学習することの意義や目的を理解し、将来を考えながら積極的に学業に励むようになってきている。これは、児童生徒主体の学習活動が増えるとともに称賛される機会も増え、学習意欲が喚起されたことによるものと推察される。次年度もさらに取組内容の質の向上を図っていく。

▲ 「集団」から「個」へ

3年間の取組を踏まえて、今後は、児童生徒一人ひとりの成長に目を向けた取組を推進していく。特に、家庭生活における学習習慣やメディア利用について、個人差が拡大している傾向があることから、小学校段階から個に応じた支援を行うとともに小・中学校間での引き継ぎを円滑にする体制を整備していく。



学校評価より



広畑祭（文化祭）における全生徒の団結

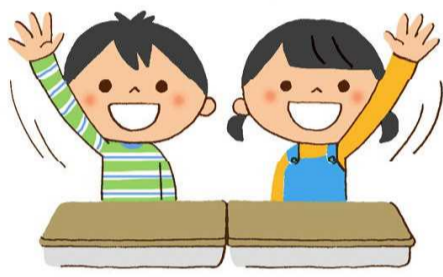
進んで学ぶ子ども

- ① 話をしっかり聞くことができる
- ② 自ら学習に取り組むことができる
- ③ 読書をたくさんする



思いやりのある子ども

- ① 約束やきまりを守ることができる
- ② 大きな声であいさつすることができる
- ③ 物を大切にする



けんこうな子ども

- ① 早寝・早起き・朝ごはんができる
- ② 毎日、楽しく運動できる
- ③ 手洗い・うがい・歯磨きを毎日する
- ④ 自分の命を大切にできる



自ら考え、意欲的に学ぶ生徒

- ① 「目標設定」
将来の夢に向かって、ねばり強く取り組もう。
- ② 「思考・判断・表現」
自分の考えを持ち、表現する力を身につけよう。
- ③ 「コミュニケーション能力」
言語活動に取り組み、伝え合う力を身につけよう。



自他を敬愛し、互いに高め合える生徒

- ① 「自主自律」
自律的な生活を送り、何事にも積極的に取り組もう。
- ② 「共生」
思いやりの気持ちを持ち、互いのよさを認め、共に高め合おう。
- ③ 「郷土愛」
広野を知り、国際的視野に立って、ふるさとを愛する心を育てよう。



心身ともに健康で、たくましい生徒

- ① 「基本的な生活習慣」
規則正しい生活を送り、生活の基盤づくりをしよう。
- ② 「体力づくり」
将来をたくましく生き抜くための健康な心と体を育てよう。
- ③ 「健康管理」
心と体の健康を考え、健康管理に努めよう。



広野町立広野中学校

学びの手引き



名前

目 次

○ なぜ家庭学習が必要なのでしょうか？	1
○ 学びの10か条	2
○ 学力を向上させるためのポイントとは？	
1 学習の基盤は生活習慣	3
2 学習と基本的生活はつながっています	4
3 学校（授業）での学習	
4 家庭での学習	5
5 自主学習とは	6
6 体力づくりも大切	
○ 最後に保護者の皆様へ	7
○ 各教科について	
国語科	8
数学科	10
英語科	12
理科	14
社会科	16
○ 私の夢をかなえるための計画	18

今年度、広野中学校では重点目標を「自分で考えて行動しよう(T.P.O)」と設定し、みなさんの学力の向上のために、授業の改善や家庭や地域との連携を密にした「つなぐ教育」に力を入れています。この「学習の手引き」がみなさんの学力向上に少しでも役立てば幸いです。そして、今後もみなさんの家庭との連携を大切に、学力の向上に向けて一緒に取り組んでいきたいと考えております。生徒のみなさんも一緒にがんばりましょう！

○ なぜ家庭学習が必要なのでしょうか？

忘却曲線というものがあります。これは、ドイツの心理学者である、ヘルマン・エビングハウスによって証明された人間の長期記憶の忘却を表す曲線です。これによると、「一度学習して覚えたことでも、20分後には42%、1時間後には56%、1日経つと74%忘れてしまう」というものです。

学校で習った時には分かったつもりでも1日経つと1/4しか覚えていないということです。

その後、記憶は、ゆるやかに減衰していき、1週間後には、77%、1ヶ月後には79%忘れてしまうということです。逆から見ると、物事を記憶した直後が1番忘れやすいことを示しており、そこで何らかの復習をすることで、この忘れていく率(忘却率)は、ずいぶん低くなることが証明されています。

つまり、同じ復習をするなら、学校で習ったその日のうちに復習することが学力向上に大変効果があることを示していると言えます。家庭学習を充実させることが学力の定着・向上に不可欠であるということです。

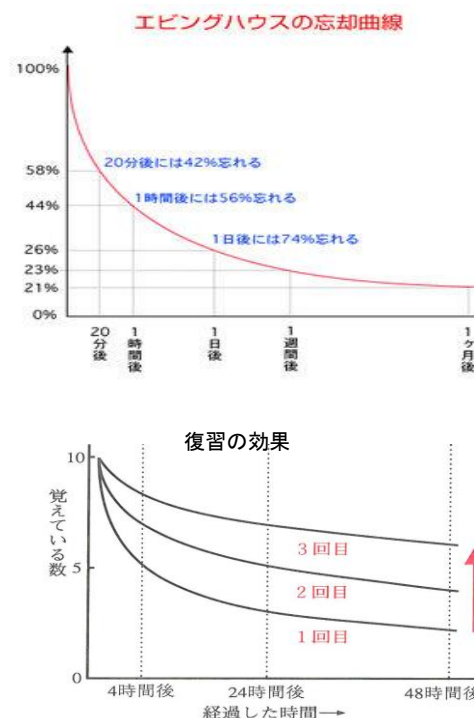
本年度の学力テストと同時に実施された学習状況調査によると、帰宅後に授業の復習をする本県の「児童生徒の割合」、「授業以外の平日1日当たりの学習時間」は、共に前年度に続いて全国平均を上回っています。県教育委員会は、「学習習慣が定着している実態がうかがえる」としています。

家庭学習で、復習をしている小学生は69.6% (全国平均 54.0%)、中学生は61.6% (同 50.4%) で、前年度よりそれぞれ2.3ポイント、0.6ポイント上昇しました。

学校の授業以外の学習時間は、「1時間以上」の小学生が71.7% (同 62.0%)、中学生が71.3% (同 67.9%) で、前年度よりそれぞれ1.8ポイント、2.1ポイント低くなりました。

一方、テレビや携帯電話などでゲームをする平日1日当たりの時間については「2時間以上」の小学生が31.4% (同 30.3%)、中学生は34.4% (同 35.4%) で、前年度よりそれぞれ0.6ポイント、7.4ポイント上がりました。

このように、学習習慣は定着しつつあるが、パソコンや携帯、スマホ等のメディア使用時間が増加傾向にあり、注意が必要であることや家庭学習の方法や内容の充実を図っていくことが、これからの課題となっています。



○

学びの10か条



- 一 「早寝・早起き・朝ご飯」の実行
- 一 明るくはっきり 「あいさつ・返事」をする
- 一 「聞く力」「話す力」を身につける
- 一 「書くこと」「読むこと」で、考える力を身につける
- 一 「読書」に親しみ、豊かな心を育てる
- 一 「学び合い」で学力の向上を図る
- 一 「説明」は筋道を立てて伝える
- 一 物事を「多様な観点」から考える
- 一 学んだ知識や技能を「活用・応用」する
- 一 「社会への関心」を持ち、「将来の目標」を持つ



○ 学力を向上させるためのポイントとは？

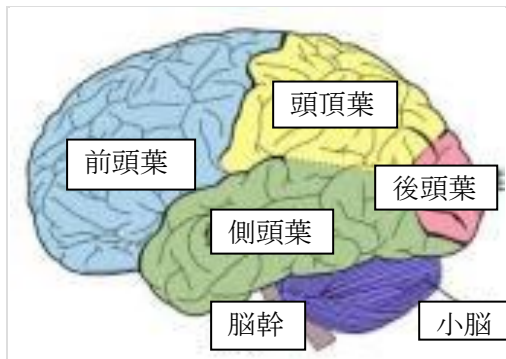
1 学習の基盤は生活習慣

学力というものは、毎日コツコツと努力を重ねることでは身に付きません。そのためには、まず生活習慣を整えることが大切です。生活のリズムが乱れていては、学習を続けることができなくなり、学力がなかなか定着しません。学ぶ力の土台を作りましょう。

- 1 体調を整える。
- 2 朝・昼・夕の食事をしっかり摂る。(食という字は「人を良くする」 「食」＝「人」＋「良」と書く)
⇒ 脳を活発に働かせるために朝食をしっかりと摂る。
- 3 自分で起き、遅刻をしない。
- 4 持ち物は前日にそろえ、忘れ物をしない。
- 5 早い時間に勉強し、睡眠時間をしっかりと取る。
- 6 新聞やニュースに関心を持つ。
- 7 家族と学校の話題や将来の進路などについてコミュニケーションをとる。



2 学習と基本的な生活習慣はつながっています



左の図は、人間の脳を側面から見たものです。

人間の脳では、構造的な成り立ちから、知性をつかさどる領域の**前頭連合野**(ぜんとうれんごうや)は**体性感覚野**(たいせいかんかくや)や情動をつかさどる領域の**眼窩皮質**(がんかひしつ)にはさまれ、強力な神経の束で結びついています。

従って、身体や心を鍛えることで、実は、知的活動の中枢を活性化していることにも

なるのです。知性は、身体や感情とうまく連携できてはじめて十分な発達が可能になります。学力と健康な心身は無縁でなく、むしろ密接に関係しているのです。

学力の問題を考えると、決まった時間に起きて食事を摂り、排泄するといった基本的な生活習慣や触感、味覚などの五感、また、豊かな心や社会性、しつけなどの問題も大切にしたいです。

3 学校（授業）での学習

授業の1時間は、家庭学習の2から3時間に当たります。わかりたいという気持ちをしっかり持って、「授業で力を付ける」ことが大切です。

- 1 先生の話や友だちの意見を「耳+目+心」でしっかり聴く。
- 2 自分で考え、進んで発表する。(発表したことはよく覚えられる)
- 3 気になったことはメモを取り、ノートは授業中にまとめる。
- 4 「質問する力」を大切に、分からないことは先生や友だちに質問する。(授業後すぐに先生に質問する積極性を)



4 家庭での学習

先ほどの「忘却曲線」でもわかるように、たとえ宿題がなくても、毎日机に向かうことが必要です。授業で理解したことを時間をかけて覚えたり、また、何回も繰り返しが必要な教科（英語・国語の漢字・数学の計算など）は、毎日の勉強が重要なポイントです。だらだらと時間をかけないで、帰宅後すぐに集中して取り組みましょう。毎日の積み重ねが、君を大きく成長させるのです。

※ 家庭学習の目安時間	10～15分×学年（中学生は7・8・9年として計算します） ちなみに、小学5、6年生は60分程度学習しています。
※ 家庭学習の場所	家の中で落ち着いた場所（いつも同じ場所がよい）
※ 家庭学習の内容	授業の予習や復習、宿題 定期テストに向けた学習 進路に向けた学習（特に3年）

- 1 宿題が出ている教科は授業を思い出して行う。
- 2 決まった時間に決まった場所で学習する。（夜遅くまで勉強しても思ったほど効果は上がらない。それどころか生活リズムが狂い、朝起きられなくなる。）
- 3 「テレビを見ながら・・・」「音楽を聴きながら・・・」といったような「ながら勉強」はダメ。
- 4 教科書や参考書をただながめていても効果は上がらない。声を出して読んでみたり、紙に何度も書いて覚えること。要点をノートにまとめたり、図や表、式を書くことは理解を進めます。
- 5 学校から与えられた問題集を徹底的に学習する。問題を解いた後、必ず答えを確認し、間違えた問題は何度もやり直し、同じ間違いを繰り返さないようにする。「忘却曲線」に沿ってしばらくしてから、同じ問題を解いて復習すれば学習効果は更にアップする。
- 6 自主学習ノートを作って自主学習を毎日行う。（学習後、教科担任の先生にアドバイスをもらうとよい）

5 自主学習とは

与えられることをするのではなく、自分から、自分のために、内容を考え工夫して、学習するものです。

- 1 宿題（課題）以外の学習メニュー（内容・順序・時間）を自分で考える。
- 2 覚えていないところ、苦手なところを見逃さない。
- 3 何度も繰り返してやる。
- 4 絵や図、グラフなどを取り入れる。
- 5 いろいろなことに興味を持ち、毎日コツコツ続ける。
- 6 一週間のサイクルで自主学習ノートを振り返り、自分の頑張りを見つめる。

6 体力づくりも大切

正しい姿勢作りには、背筋と腹筋の力が不可欠です。すぐに机に肘をついたり、机に伏したりする人は背筋が弱いのです。

- 1 正しい学習姿勢を作るためにも、毎日、「腹筋・背筋」を鍛えること
- 2 学習を続ける「持久力」も必要です。毎日20分くらいは、ジョギングや縄跳びを行い、脳に酸素が送られるようにすること。



○ 最後に保護者の皆様へ

～やる気を育てる保護者のかかわり方～

「よりよく生きるために勉強は大切だ」、「夢を実現するために、勉強がもっと分かるように、できるようになりたい」、子どもたちはそんな願いを持って、先生や仲間とともに勉強します。

- 1 大きくほめよう 小さな成長！
- 2 テレビより**家族の対話** スイッチオン！
～ノーメディア日の推進～
- 3 「○○しなさい」で動くより **自分で考え 行動する子へ**
- 4 「ありがとう」の言葉で **言葉のキャッチボールを！**
- 5 **努力する親の姿が** 子どもの鏡！



国語科



1 国語で学ぶこと

- 話す・聞く・書く・読むことについて、興味や関心が持てるようになります。
- 自分の意見や考えを相手に伝えるように話したり、相手の伝えたいことが何なのかを聞き取れるようになります。
- 自分の考えを論理的・効果的に表現できるようになります。
- 内容や要旨を把握しながら読み取り、読書を通して自分の考えを深めたり広げたりすることができるようになります。
- 漢字の読み書きや語彙の意味についての知識を活用できるようになります。

2 国語学習での評価

ねらいに到達しているかを次の観点と方法で評価します。

- (1) 国語への関心・意欲・態度
積極的に話し合いに参加したり、課題を解決しようとする。
読書に親しみ、自分の考えを深めようとする。
※ 授業での態度や発表の様子、スピーチ、ノート記述、課題への取り組みなどから評価します。
- (2) 話す・聞く能力
自分の考えや伝えたいことを相手にわかるように話すことができる。
相手が何を伝えようとしているのかを考えながら聞くことができる。
※ 授業での態度や発表の様子、スピーチ、聞き取りメモ、相互評価、自己評価、ワークシート、テストなどの内容から評価します。
- (3) 書く能力
自分の伝えたいことを論理的に、構成を考えて書くことができる。
※ ノート記述、作文、ワークシート、テスト、相互評価、自己評価などから評価します。
- (4) 読む能力
文章の筋道をとらえながら正確に読み、内容や要旨を理解することができる。
※ ノート記述、ワークシート、発表、テストなどから評価します。
- (5) 言語についての知識・理解・技能
言葉の決まりを理解し、漢字や語句を正しく使うことができる。
文字の形、大きさ、字配りなどを理解し、正しく書くことができる。
※ ノート、毛筆硬筆作品、テスト、各種資料から評価します。

3 ノートの取り方

- (1) ノートは縦書きが基本。板書だけでなく、自分の考えや友だちの意見も書き込めるスペースを確保しよう。
- (2) あとで復習する際に、授業で何を学習したのかがわかるようにノートを工夫し、見やすく丁寧に書こう。
- (3) 先生の質問や重要事項も良く話を聞いてメモをしておこう。
- (4) 新出漢字や意味のわからない言葉を書き出しておこう。
- (5) 予習・授業・復習の内容が一目でわかるように、色分けしたり、ノートを区切ったり、自分だけのノート作りに挑戦しよう。

4 家庭学習の仕方

【予習】

- (1) 教科書を音読し、読めない漢字やわからない言葉をノートに書き出していく。
- (2) 意味のわからない言葉については、辞書を活用して、ノートにメモしておく。その時に、一般的な意味と教科書の本文に即した意味とどちらも書いておく。
- (3) 教科書の新出漢字が書かれてあるところを参考にして、読めない漢字を読めるようにしておく。
- (4) 教科書の内容についての感想や疑問を書いておく。
- (5) 次の授業で学習する内容や宿題に取り組む。

【復習】

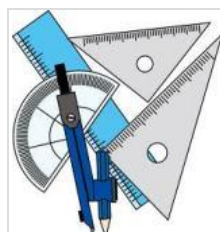
- (1) 授業で何を学習したのかを確認しておく。(教科書の内容は理解できたか。漢字や語句の意味がわかったか。疑問は解決したか。)
- (2) 授業で書き切れなかったところがあれば完成させておく。
- (3) きれいに記入できなかった部分を丁寧に書き直しておく。
- (4) 授業を振り返って、重要だと思ったところに色ペンでラインを引いたり、書き込んだりしていく。

5 さらに国語力を高めるために

- (1) 文章を読む機会を毎日の生活の中に位置づけましょう。(読書や新聞など)
- (2) 日記を付けたり詩や短歌を作るなど、書く習慣を身につけていきましょう。
- (3) 人の話に耳を傾ける習慣をつけましょう。何を伝えようとしているのかを考えながら聞く態度を養いましょう。
- (4) テレビ番組や新聞記事など、生活すべてについて自分の意見(感想)を持つようにしましょう。
- (5) わからない言葉はすぐに辞書で確認する習慣を身につけましょう。



数学科



1 数学科で学ぶこと

人は生きていく中で、いろいろ困難な問題に直面します。そんな時、自分の持つ知識やそれまでの経験を生かして乗り越えなければなりません。このような力を身につけることが数学の目的でもあります。

数学は、物事をより簡単に解き明かすために、役に立つ考え方を学ぶ教科です。また、数学はいろいろなところで役に立っています。建物を作る基礎となる設計も数学ですし、料理を作るときにも数学の計算が使われています。さらに、グラフや図形の性質など、理科の学習にも役立っています。このように数学はいろいろなものの基礎になっています。

2 数学科での評価

ねらいに到達しているかを次の観点と方法で評価します。

(1) 数学への関心・意欲・態度

数学的な事象に関心を持つとともに、数学的活動の楽しさや数学的な見方や考え方の良さを知り、それらの事象の考察に進んで活用する。

※ 授業での態度や発言、提出物、ワークシート、準備物、問題集の実施状況、自己評価などから総合的に評価します。

(2) 数学的な見方や考え方

数学的活動を通して、数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに、思考の過程を振り返り、考えを深める。

※ 授業での発表、説明の内容、ワークシート、テストなどから評価します。

(3) 数学的な技能

事象を数量、図形などで数学的に表現し処理する仕方や推論の方法を身に付けている。

※ 授業での発表、ワークシート、テストなどから評価します。

(4) 数量や図形などについての知識・理解

数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則などについて理解し、知識を身に付けている。

※ ワークシート、テスト、各種資料から評価します。

3 数学の学習で必要な力

数学の問題を解決するためには、いろいろな力が必要です。

(1) その問題について興味を持って根気強く考えようとする気持ち

(2) これまでに学習した内容のどれが関係しているか照らし合わせる力

(3) これまでに学習した内容をどのように組み合わせていくべきか考える力

(4) その考えた内容で正確に処理する力

4 授業にのぞむ心構え

- (1) 授業に必要なものは、休み時間のうちに机上に出しておこう。
- (2) 今日の授業では、何をするのかははっきり押さえ、ねらいをしっかりと書こう。
- (3) ノートやワークシートに自分の考えをきちんとまとめ、その他重要事項と思われるものは、自ら進んで記入しよう。
- (4) 手を挙げて、自分の考えや解き方を進んで発表し、積極的に問題に取り組もう。
- (5) 間違いはすぐに消してしまうのではなく、なぜ間違ったのかを考えるようにしよう。
- (6) わからないところは遠慮しないで質問しよう。
- (7) 課題に対して、自分なりの考えを持つようにしよう。
- (8) 友だちの発表も良く聞いて、よりよい考えを求めるようにしよう。

5 家庭学習の仕方

【復習の仕方】・必ず授業のあったその日に復習する。

- (1) 用語や記号、性質などをしっかり覚える。
- (2) 授業の例題をもう一度解く。
- (3) 解き方と答えを確認する。(ノートやワークシートで確認)
- (4) 類似問題(問題集など)を解く。
- (5) 答えを確認し、さらに発展問題を解く。

} このサイクルを繰り返す。

※この繰り返しで、力をつけていきましょう。

【予習の仕方】

- (1) 次の授業で学習する内容に目を通そう。(わからないところは教科書に線を引くなどして、授業で注意して聞いたり、質問したりしよう。)
- (2) 自力でできそうと思ったら、教科書の例題を解いてみよう。



英語科



1 英語で学ぶこと

- 相手にたずねたり、相手の質問に答えたりするための言葉の使い方を学びます。
- 日本語と英語の言葉の違いについて学習します。
- 過去や未来のことを言うための言葉の使い方を学びます。
- 英文の手紙や日記の書き方について学びます。
- 外国人の習慣や日常生活について触れます。
- 外国の人々の考え方や身振り、手振りの違いなどについて学習します。

2 英語学習での評価

どれだけ身につけたかを次の観点と方法で評価します。

- (1) コミュニケーションへの関心・意欲・態度
進んで学習に取り組んでいるかどうか間違いを恐れずにどんどん発言しているか、積極的に英語を使っているか、宿題をやっているかなどを見ます。
- (2) 外国語表現の能力
身近なことがらについて、話したり書いたりすることができるかどうかを授業の様子、スピーキングテスト、英作文、日記などから判断します。もちろん、定期テストでも判断します。
- (3) 外国語理解の能力
身近なことがらについて、聞いたり読んだりすることができるかどうかを授業の様子やテストなどから判断します。
- (4) 言語や文化についての知識・理解
単語や文法（英文を作るときの決まり）や外国の文化などについてわかっているかどうかを授業の様子やテストから判断します。
※ ちなみに 3年間教科書に出てくる単語→約 1, 200 語
日常会話に必要な単語 →約 3, 000～3, 500 語
卒業までに覚えない単語 →目標 2, 000 語

3 授業の受け方

何とんでも「授業」が一番大切です。授業中に全てを覚えてしまおうという気持ちで「授業」を受けましょう
英語の「授業」を受けるポイントは2つです。

- (1) 「授業」で学習する「ことば」は、いつ、どこで、どんなふうに使われるのか？
どんな調子で、どんなふう発音されるのか？を学習します。
- (2) その「ことば」を通して、外国人はどんなふう物事を考え、どんなふう生活しているのかをしっかりと学習してください。

4 家庭学習の仕方

英語の学習では「くりかえすこと」が大切です。

【復習はその日のうちに】

- (1) 教科書を読もう
教科書を大きな声で読んで、その日に学習したこと（文や語句の意味・発音、ことばのきまり、外国人の生活や文化）などを確かめる。「読むこと」「話すこと」の復習にもなります。
- (2) ノート・辞書・参考書・ワークブックを利用しよう
わからないことが出てきたら、ノートを見たり、辞書や参考書で調べましょう。「ノート・辞書・参考書」は、あなたの先生です。それでもわからないときは、学校の先生に質問しましょう。
また、ワークブックなどの問題をやってみて、自分が本当にわかっているかどうか確かめることも大切です。
- (3) くりかえして練習しよう
英語は、私たちが普段使っていることばではありません。だから、「練習」つまり「くりかえすこと」が大切になってきます。「ことばの意味や発音」をくりかえし覚えるとともに、「単語のつづり」をしっかりと練習しましょう。また、CDやTVなどを利用して「聞くこと」や「話すこと」の練習をすることも大切です。

【予習はこれだけで十分】

- (1) 教科書の本文をノートに書き写し意味を考えて見よう
本文を書き写すことによって、「つづりの練習」になり、自分のわかるところとわからないところをはっきりさせることができます。「授業中」は、自分のわからないところに集中すれば良いわけです。
- (2) 辞書や教科書の単語の索引を使って単語や熟語の意味を調べておこう。あらかじめ、意味を予想できるようになると英語が上達した証拠です。

5 さらに英語力を高めるために

- (1) 積極的に英語に触れる。
 - ・ALT と休み時間に会話をする、英語の歌を聞く、洋画を見る、英語の本を読む、英語検定にチャレンジする など
- (2) とにかく「くりかえすこと」が大切
 - ・単語のつづりや基本文は「耳で聞いて、目で見て、口で言って、手で書いてみる」ことです。

理科



1 理科で学ぶこと

- 自然の事がらや現象について、興味や関心が持てるようになります。
- 観察や実験などを通して、自然について科学的に調べられるようになります。
- 自然の事がらや現象について、説明できるようになります。
- 身のまわりのことについて、科学的に見たり考えたりすることができるようになります。

2 理科での評価

ねらいに到達しているかを次の観点と方法で評価します。

(1) 自然事象への関心・意欲・態度

自然の事象について意欲的に調べ、生活とのかかわりでみようとする。

※ 授業での態度や発言、提出物、ワークシート、実験観察報告書、準備物、授業ノートへの取り組みなどから評価します。

(2) 科学的な思考・表現

自然の事象について、事実をあげて説明したり、筋道を立てて説明することができる。

自然の事象について、分析したり、総合して考えたりして問題を解決することができる。

※ 授業での発言、発表、報告書（レポート）、ワークシート、テストなどから評価します。

(3) 観察・実験の技能

観察・実験の操作ができる。

観察・実験を通して科学的に調べ、それらの過程や結果を的確に整理することができる。

※ 授業での実験・観察の取り組み方、発表、器具操作の正しさ、報告書、テストなどから評価します。

(4) 自然事象についての知識・理解

自然の事象・現象についての基本的な事項について説明することができる。

※ワークシート、テスト、各種資料から評価します。

3 観察・実験のしかた

(1) 観察・実験の目的をよく理解しよう。

(2) 観察・実験の方法を自分たちで工夫しよう。

(3) 実験の結果を予想しながら進めよう。

(4) 観察・実験の記録はできるだけ詳しくとろう。

(5) 観察・実験は理科学習の基礎となるものなので、人まかせにせずに進んで取り組もう。

3 ノートのとり方

- (1) 授業のはじめに日付を記入しよう。
- (2) 重要事項は、赤線を引いたり赤枠で囲むなど一目で重要なことがわかるようにしよう。
- (3) 疑問点や理解できなかったところにしるしをつけて質問しよう。
- (4) 黒板に書いてあるものだけでなく、先生が説明したものや友だちの発表などもメモしておこう。
- (5) 結果や答えだけを書くのではなく、途中の計算や考え方などもメモしよう。

4 家庭学習の仕方

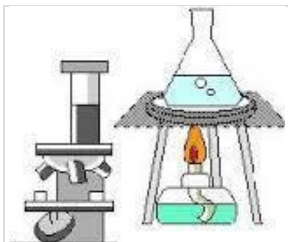
【復習の仕方】・・・理科は復習を中心に学習しよう

- (1) 必ず授業のあったその日に「何についてどのような学習をしたのか」何も見ないで頭の中でイメージし、確認する。
- (2) 確認したことが正しかったかどうかノートを見て確かめる。わからなかったところもしっかりとおさえておくようにする。
- (3) 教科書を丁寧に読み、ノートを整理、完成する。
- (4) ワークブックをやり、わからないところや間違えたところにしるしを付けておき、もう一度教科書にもどって確認する。

※ 自然体験や知識が多いほど理解もしやすくなります。自然に直接触れたり、水族館や博物館などに積極的に足を運んだりしましょう。また、テレビの科学番組を見るのもいいでしょう。

5 理科室でのきまり

- (1) まわりには、ガラスや実験器具があるので静かに行動しよう。
- (2) 机上の整理整頓に努めよう。
- (3) 協力しながら観察・実験の準備や後片付けをしよう。
- (4) 事故の無いように安全には十分気をつけよう。
- (5) 実験器具を破損したときは、必ず先生に申し出て指示を受けましょう。



社会科



1 社会で学ぶこと

- 世の中の出来事について興味や関心が持てるようになります。
- 表や図など様々な資料を活用して、様々なことについて調べられるようになります。
- 世の中の出来事について自分なりの考えを持つことができるようになります。
- 勉強するうちに「わかる楽しさ、知る喜び」を味わうことができます。

2 社会での評価

ねらいに到達しているかを次の観点と方法で評価します。

(1) 社会事象への関心・意欲・態度

自然の事象について意欲的に調べ、世の中との関わりでみようとする。

※ 授業での態度や発言、提出物、ワークシート、実験観察報告書、準備物、授業ノートへの取り組みなどから評価します。

(2) 社会的な思考・判断・表現

社会事象から「なぜ？」を見つけ、様々な角度から分析し、「私は・・・と考える。」という自分の意見を持つことができる。

※ 授業での発言、レポート、ワークシート、定期テストなどから評価します。

(3) 資料活用の技能

地図や統計資料（グラフ・表・図など）、昔の史料から価値ある情報を見つけ、それをもとにしてレポートをまとめることができる。

※ 授業での発言、レポート、ワークシート、定期テストなどから評価します。

(4) 社会的事象についての知識・理解

社会事象の基本的な事項を理解し、説明することができる。

※ 定期テスト、授業中の小テスト、ワークシートなどから判断します。

3 社会科の特徴

社会科は、歴史的分野・地理的分野・公民的分野の3つに分かれています。1・2年生で地理と歴史を交互に学習します。地理は現地に行かなくてもデータからその地域の様子を理解するコツを学びます。歴史ではなぜ、今自分たちがこういう生活をしているのかを学びます。3年生では公民を学習します。公民では世の中の仕組みを学習します。

4 ノートのとり方

- (1) 社会は教科書中心に学習を進めよう。
- (2) 黒板に書いてあることや先生の説明で大事だと思った所は、ワークシートにメモをしておくとう復習するとき便利です。
- (3) 難しい漢字が多いので、しっかり覚えるためにも、普段から漢字で書く習慣をつけておきましょう。
- (4) 今日の学習目標は必ず書いて、何を学習したのかが、はっきりわかるようにしておきましょう。

5 家庭学習のしかた

【復習】・・・社会は教科書を中心に学習を進めましょう。

- (1) 宿題があった場合は必ず行うこと。
- (2) 教科書の太字の語句は漢字で書けるよう3回は練習してみることに。
- (3) 小テスト前には、必ず範囲の部分を見直す勉強をすること。

【予習】

- (1) 必ず授業の前までに学習する教科書の部分を声に出して読み、読めない漢字は調べて読めるようにしておくこと。

※ 世の中の常識を知っているほど理解もしやすくなります。ニュース番組や歴史に関する番組を見てみると、社会という教科を身近に感じることができるでしょう。

歴史マンガなどを手始めに、社会に関係する本を手にとってみると楽しいかもしれません。

6 社会を学ぶ皆さんへ

「社会科は覚えることが多いから嫌い」という人もいます。そんな人にアドバイス
その1 “好きこそものの上手なれ”ということわざがあるように、好きになると覚えることが苦にならなくなります。歴史であれば、マンガ小説から「おもしろそう」と思えるところを見つけてみては？

その2 知識を自分の知っている事柄と結びつけて覚えましょう。
「昨日地震が起きたのは・・・県」「竹中直人が演じてるのは豊臣秀吉」

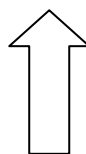
○ 私の夢をかなえるための計画



【私の素晴らしいところ 3つ】

- ・
- ・
- ・

【私の将来の夢（現在考えていること）】



【夢をかなえるための具体的な目標】

○中学校卒業後の具体的な進路の目標

【1】学習面で努力していききたいこと

【2】生活面で努力していききたいこと

【3】部活動で努力していききたいこと